

聖書を開きましょう

2013年3月

絶えず祈りなさい

1. 導入

スオミ・キリスト教会の今年のテーマ聖句は何だったのでしょうか？それをまだ覚えていらっしゃるでしょうか？

1. マタイ7章7節 （新約聖書 p. 11）

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

このみ言葉に3つの助言と3つの素晴らしい約束があります。求めたり、探したり、門をたたいたりする人は祈る人、つまり神様に頼る人です。そして、求めれば与えられ、探せば見つかり、たたければ開かれると約束された方は主イエス・キリストです。イエス・キリストはたしかにご自分の約束を果たされるお方です。しかし、私たちは何を求めればいいのでしょうか。今日は五つの面から祈る事について学びたいと思います。

2. 一番大切な祈り ～ 来て下さい

子供の頃毎日、ダイニングテーブルの周りに家族が集まり、一緒に食事をしたことを今でもよく覚えています。食事が終わって、父は聖書の箇所を説明する短い話を読んでもくれました。その後、皆で感謝の祈りをし、食事を作ってくれた母に「ご馳走さま」と言って、後片付けをしました。食卓を片付けることと食器を洗うことはやはり子供たちにとって面倒なことでしたが、今それを顧みると、父と母に教えてもらったことや習慣が感謝に思えます。小さ

い時から家事をすることに慣れて良かったと思います。 テーブルマナーも食前の祈りと食後の祈りも自然に身に付けることができました。

子供のころ、私は教えてもらった「食前の祈り」を初めとして「**私たちの食べ物を祝福してください。私たちと一緒にいつもいらっしゃってください。**」という祈りをしました。この祈りを通して、人だけではなく、主イエス・キリストも共にいらっしゃるようにと頼みますね。主が私たちの家庭に訪れてくださるように、また食卓を祝福してくださるようにと願います。そして「私たちと一緒にいつもいらっしゃってください」と祈りますね。では、イエス・キリストはこのような祈りにどのように応えて下さるでしょうか。聖書にこのようなイエスの言葉が書いてあります。

2. ヨハネの黙示録 / 3 章 20 節 （新約聖書 p. 457）

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。



昔から、人々は、毎日食事を一緒にする時、その一日のことを分かち合う時間を大切に過ごしてきました。現在の忙しい人々の生活と比べたら、今は、なかなかそのような時間はないと思います。しかし、昔からどんな国でも、食事を共にすることは友情を意味することだったでしょう。

さっき読んだ聖書の箇所によると、主イエスは私たちみんなの心の戸をたたいていらっしゃいます。人がイエス様の声を聞いて心を開いたら、イエス様は人の心に入ってくださいま

す。そして、厚い友情の印として、その人と共に食事をしてくださいます、つまり深い愛でその人を抱いて下さいます。イエス・キリストはただお客様として私たちを訪れたくはないのです。イエス・キリストは心の主として私たちと共に歩んでいきたい、また罪を悔い改める者に罪を赦してくださる救い主として天国まで私たちを導いたり守ったりされたいので

す。神の御子のみが私たちの体と魂を養うことができますから、一番大切な祈りはこれでしょう。

3. ヨハネの黙示録 / 22 章 20 節 (新約聖書 p. 480)

アーメン、主イエスよ、来てください。

そして、私の罪を赦して、私の心の主になってください。 アーメン。

3. イエス・キリストを知る ～ み顔とみ心を示して下さい

私たちは知らない人に自分の家のドアを開けたくはないでしょう。その人は信頼することができる人かどうか分からなかったら、その人を家の中に入れたくないのは当たり前でしょう。では、私たちの心の戸をたたいて下さる神様の御子はどんな方でしょうか。どうしたら主イエスのみ顔とみ心が分かるようになるのでしょうか？

神様はご自分自身をみ言葉を通して示して下さいます。また、この間、木村先生の読書会でも聞いたことですが、マルティン・ルターによると私たちは祈りを持って聖書を読むべきです。だから、私たちは祈りながら聖書を読むと、イエス・キリストがどんな思いを持って私たちの心の戸口に立っておられるかが分かるようになります。

4. ホセア書 / 11 章 4 節 (旧約聖書 p. 1416)

わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き／彼らの顎から軛を取り去り／身をかがめて食べさせた。

イエス・キリストは全能の神様ですが、決して人に心を開けるために圧力をかけるようなことはなさいません。愛である神様は暴力によって、あるいは力づくで人の心のドアを開けようとはなさらないのです。イエス様は無理にではなく、愛を持って私たちをお迎えになりたいのです。

5. ローマの信徒への手紙 / 2 章 4 節 (新約聖書 p. 275)

あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

イエス様は深い愛と憐れみを持って心の戸をたたいて下さいます。けれども、私たちはイエス様のその優しい呼び声が聞こえているでしょうか。どのように、またどこでそれをよりよく聞くことができるでしょうか。

4. 必要なもの ～ 私たちを養って下さい

教会には毎週日曜日の礼拝が行います。そのとき、主イエスは御言葉と祈り、また讃美歌と聖餐式を通して私たちに近づけて下さいます。

私は15歳のころ、堅信準備会に参加しました。その時、牧師先生に聖餐式の聖礼典について大切なことを教えていただきました。先生は、例えば、次のように教えて下さいました。

「聖餐式のとき授かるパンはキリストのみ体とぶどう酒はキリストの血です。あなたの罪の赦しのために与えられたキリストの体とあなたの救いのために流されたキリストの血です。聖餐を受けるとき、それを覚えて下さい。」そして、先生は言い続けました。「パンがあなたの口にある如くイエス様はあなたと一緒におられます。また、ぶどう酒があなたの口にある如くイエス様は実際にあなたと共におられます。」そのときから、私は聖餐を受けるたびに「このパンとぶどう酒のように、イエス様は本当に私のそばにおられます」と先生の言葉を思いだして嬉しく思います。神様は聖餐を受けることを通して弱い罪人の私を具体的に養ってくださるのです。

さあ、子供の時代の話に戻りましょう。その時、私が教えてもらった「食前の祈り」には次のような言葉もあります。「あなたより全てのものを頂くと言うことをどうぞ、忘れないように私たちを助けて下さい。」同じことが旧約聖書の

6. 詩編 / 145 編 16 節にも書いてあります。（旧約聖書 p. 986）

（神様は）すべて命あるものに向かって御手を開き／望みを満足させて下さいます。

日本やフィンランドのような豊かな国の満たされた人々にとって、毎日の食事は当たり前のものになっていると思います。食べ物を簡単に店で買う事が出来るということをお子に知っています。一方、第二次世界大戦を経験した私の両親の年代の方もまだたくさん生きておられます。その方たちは戦後の食物の不足の時代を覚えていて、今でも食べ物を感謝し、それを大事にしています。私たちが当然として捉えているものも、結局当たり前のものではないのでしょうか。

どれほど豊かな国であっても、例えば、天気の悪い日がしばらく続くと、作物の被害も多くなって、作物の量も減るでしょう。また、例えば、失業者、もしくは病気のために、働けなくなると、お金も減るでしょう。そして、お金がなければ、何も買えません。先進国でも、思いがけないことや人間の力ではどうにもならないことが起こることは少なくないと思います。けれども、私たちをお造りになった全能の神様に無理ということはありません。

私たちは生活するために必要なものを全部結局天の父なる神様からいただくのです。ですから、神様が私たちを肉体的にも霊的にも養って下さるように祈りましょう。

5. 人生の戦い ～ 強めて下さい

人生は色々な戦いがあるものです。戦いに負けないように、祈るのは不可欠なものです。

モーセの経験から習いましょう。

7. 出エジプト記 / 17 章 11～12 節 (旧約聖書 p. 122)

モーセが手を上げている間、イスラエルは優勢になり、手を下ろすと、アマレクが優勢になった。モーセの手が重くなったので、アロンとフルは石を持って来てモーセの下に置いた。モーセはその上に座り、アロンとフルはモーセの両側に立って、彼の手を支えた。その手は、日の沈むまで、しっかりと上げられていた。

旧約聖書の時代、手を上げている様子は祈りのポーズでした。モーセは手を上げているときだけ戦

いに勝利を収めました。手を下げたら、すぐ敵に負けてしまいました。けれども、一人でずっと手を上げているのは無理ですから、友達に助けてもらいました。 私たちもアロンとフルのように、祈りによって兄弟姉妹を支えましょう。

8. マタイによる福音書 / 18 章 19 節 (新約聖書 p. 35)

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。

私たちも一人ではなく、祈りの友人を探しましょう。 まだ次の箇所を読みましょう。

9. ローマの信徒への手紙 / 8 章 28 節 (新約聖書 p. 285)

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

このみ言葉は万事が自動的に皆さんの益となるとは、約束しません。しかし、神を愛する者たちに「万事が益となるように共に働く」と約束します。祈りは魔法のように人の全ての望みや夢がかなうようには働きません。けれども、聖書に祈りに対して次のような不思議な約束があります。

10. イザヤ書 / 65 章 24 節 (旧約聖書 p. 1169)

彼らが呼びかけるより先に、わたしは答え／まだ語りかけている間に、聞き届ける。

私たちの心の悩みを祈りに変える前に、神様はもう私たちの願いをご存知です。そして、神様はかならず、私たちの祈りに答えて下さいます。例え私たちの考えと違っていても、私たちにとって一番いいタイミングはいつか、また一番いい答えは何かを、神様は私たちよりよくご存じです。

6. 最後に ～ 感謝しましょう

神様は求めたり、探したり、門をたたいたりする人の祈りを聞いて下さいます。道であり、真理であり、命である主イエスは、祈る人に必要なものを与えたり、正しい道に導いたり、永遠の命の門を開けたりして下さい。神の御子のみが私たちの体も魂も養うことがお出

来になるのです。このことを考えれば、神様に感謝することは当然のことになると思います。
では、最後に、一緒に「食後の祈り」の言葉を通して感謝しましょう。

「主よ、あなたは食べ物を持って私の体を養い、み言葉を持って私の魂を養って下さいました。あなたに、心から感謝いたします。アーメン。」